

ONKYO.



第2四半期 経常損益黒字化について
～平成29年3月期第2四半期決算ハイライト～

2016/11/11

オンキヨー株式会社

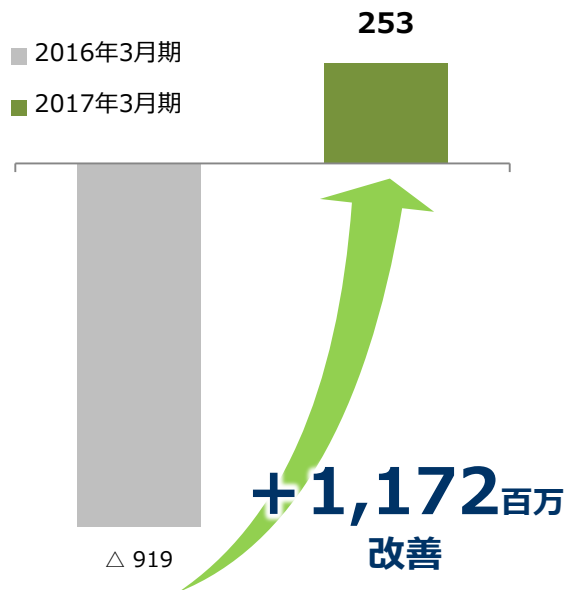
- Q2期間において3期ぶりの営業黒字、
4期ぶりの経常黒字
 - 第3四半期連結累計期間で営業黒字転換を目指す
 - デジタルライフ事業 初の四半期単独黒字
- ⇒ 確実な回復路線へ

2017年3月期 Q2営業損益・経常損益について

Q2期間において3期ぶりに営業損益黒字化
4期ぶりに経常損益黒字化を実現

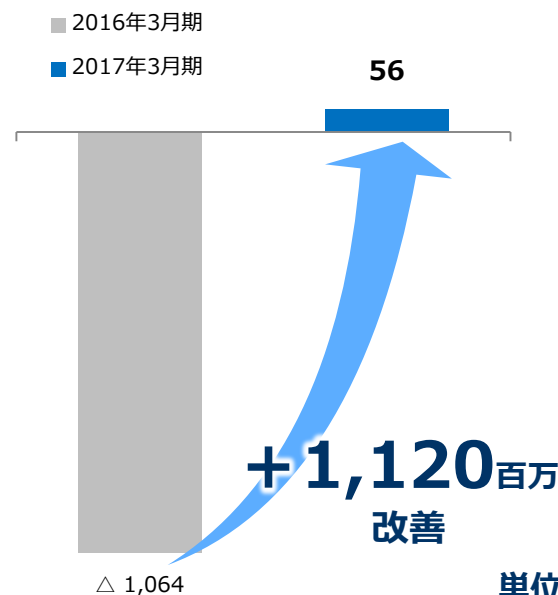
営業損益
前年同期改善額

3期ぶり
Q2黒字



経常損益
前年同期改善額

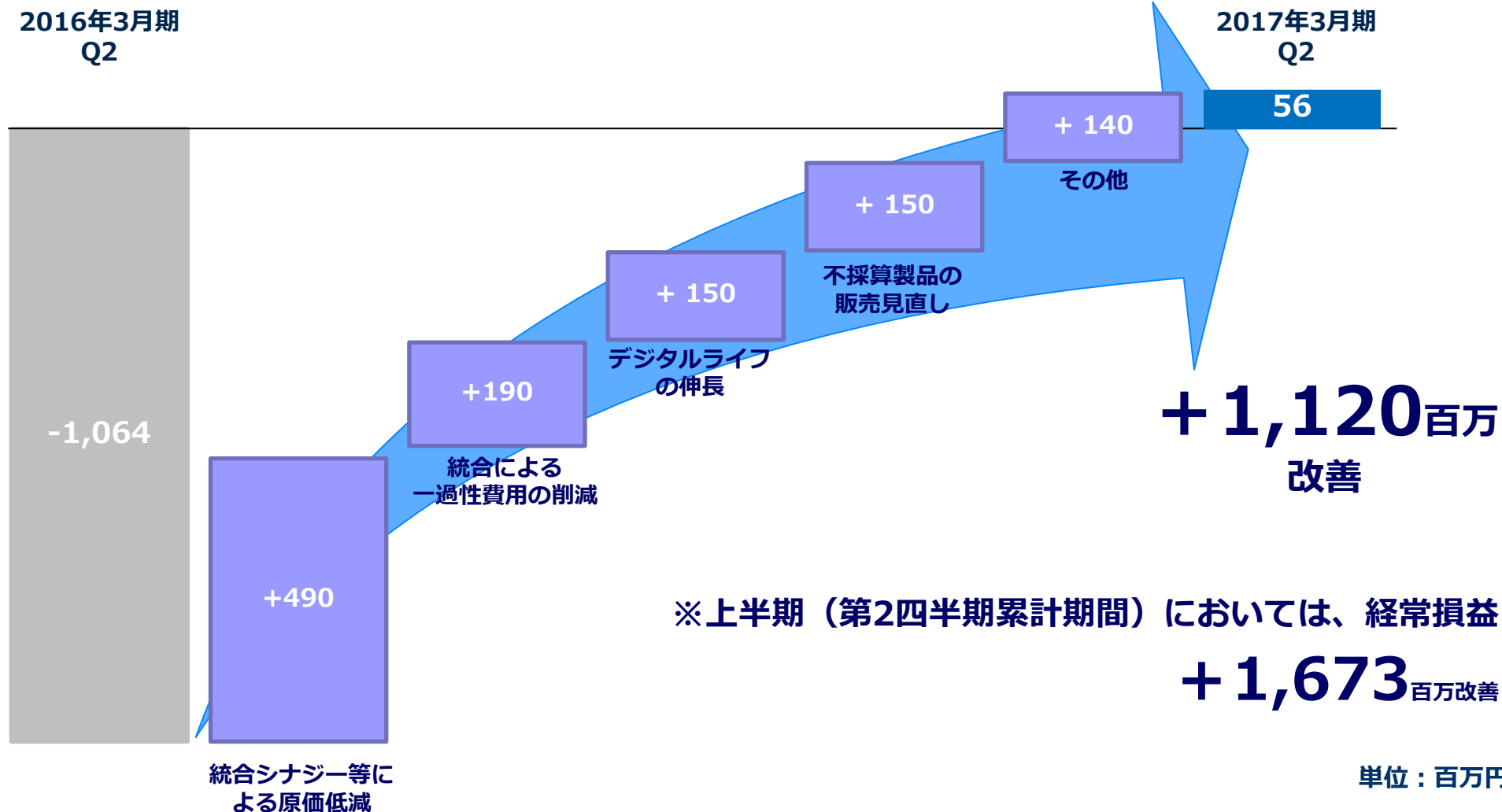
4期ぶり
Q2黒字



単位：百万円

2017年3月期Q2 経常損益の増益要因

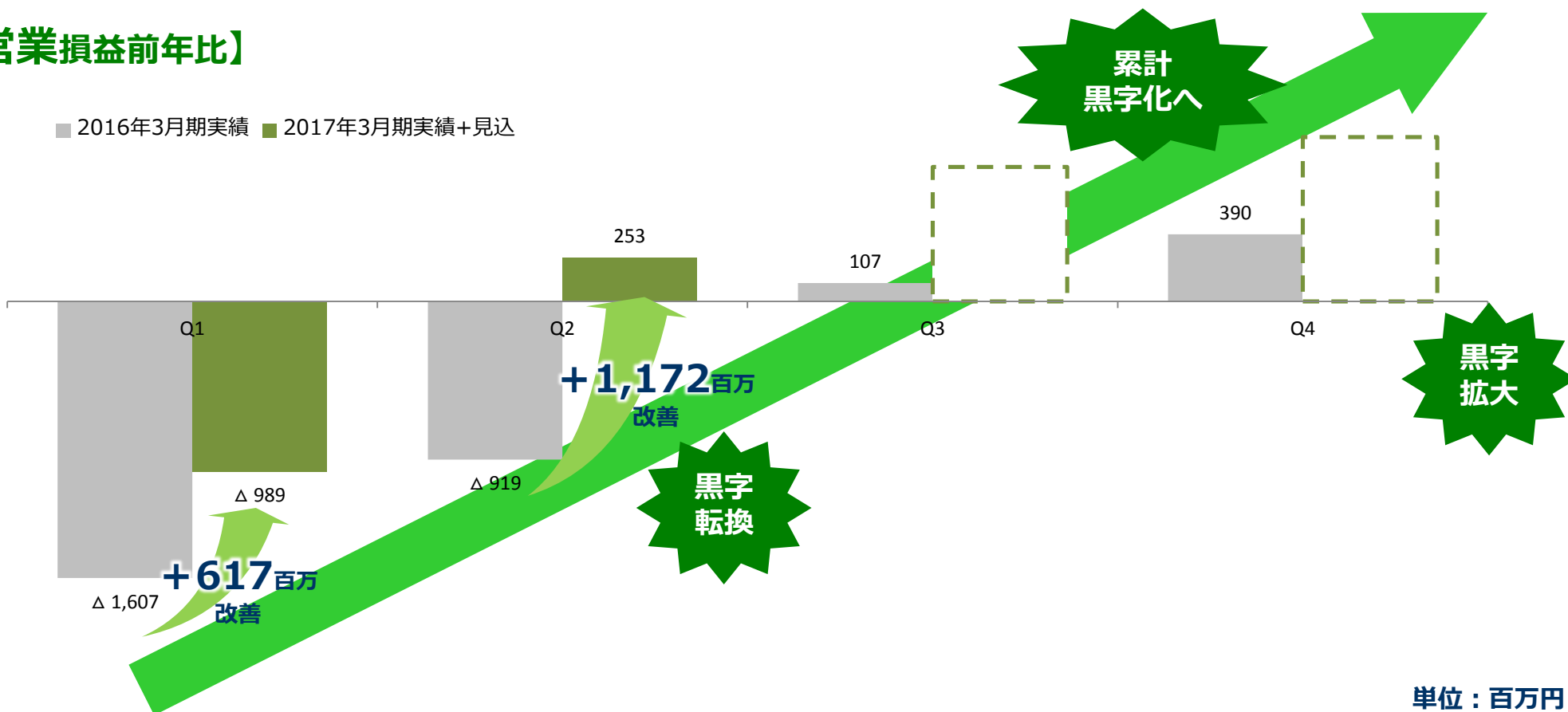
シナジー効果の実現やオペレーションの安定が寄与し改善



営業損益推移について

当第3四半期連結累計期間で営業黒字化を目指し、
通期において計画通り営業利益10億円を見込む

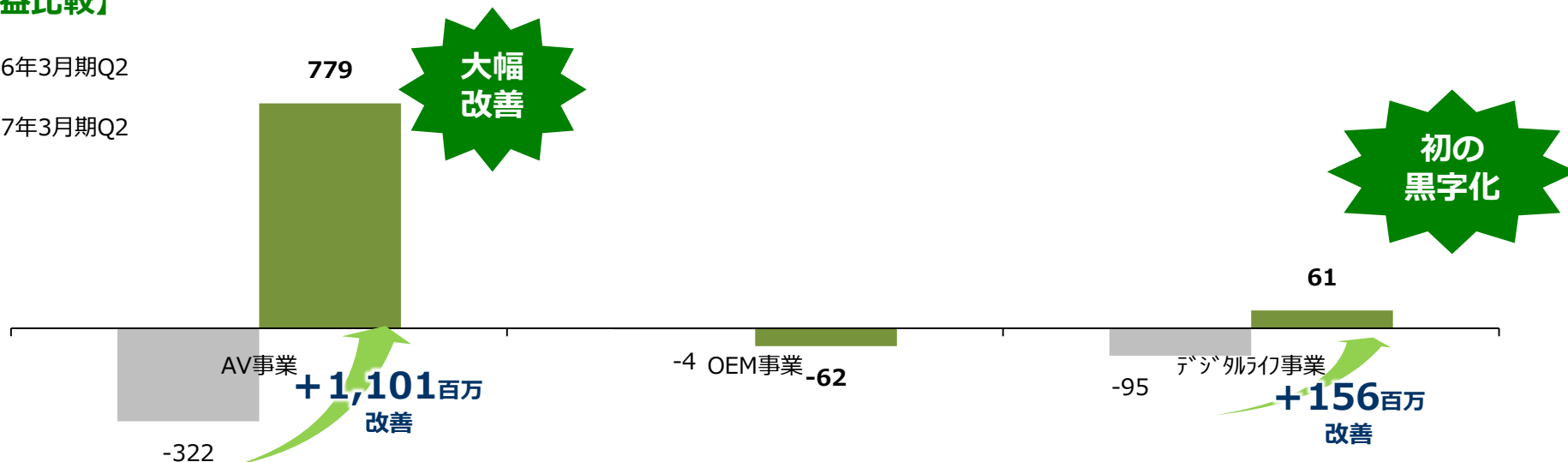
【営業損益前年比】



セグメント別 Q2営業損益と主たる要因

【営業損益比較】

- 2016年3月期Q2
- 2017年3月期Q2



単位：百万円

AV事業において大幅に損益改善、デジタルライフ事業の黒字化を実現

- AV事業** 統合シナジー効果の実現、パイオニアブランド不採算製品の販売見直し、円高ドル安による製品原価低減により**大幅改善**
- OEM事業** 中国内工場の集約に伴う生産効率の向上により改善したが、次世代ヘッドホン用ドライバー開発の先行投資によりセグメント損失計上
- デジタルライフ事業** DAP、Bluetoothヘッドホンなどのモバイル製品の販売が伸長、電話機の本体原価低減により、**初の四半期黒字化を実現**

更なる成長に向けた取り組みについて（AV事業）

オーディオ

ハイレゾ対応や最新機能を備え、
進化した人気シリーズが再登場

Scepter



INTEC



- 世界初※セルロースナノファイバーを使用した振動板を搭載したスピーカーシステム“Scepter”シリーズ
- 単品オーディオの性能と現代的な機能性を備えたプレミアムハイコンポ“INTEC”シリーズ

※2016年10月26日現在、当社調べ

AV

新規格サラウンドへの対応や
ネットワークオーディオ製品が続々登場



FS-EB70



LS5200（海外）

- FS-EB70：話題のDolby Atmos®とDTS:X™の三次元音場再生に対応、上方向からの音を加えることで、三次元音場の臨場感迫るシアターサウンドを体感
- LS5200：スマートなデザインに加え、話題のSpotify等、ストリーミングサービスに対応、さらにマルチルームオーディオにも対応（今後アップデートで対応予定）

更なる成長に向けた取り組みについて（OEM事業）

インドにおける合併事業 ～インドUNO MINDA GROUP との協業～



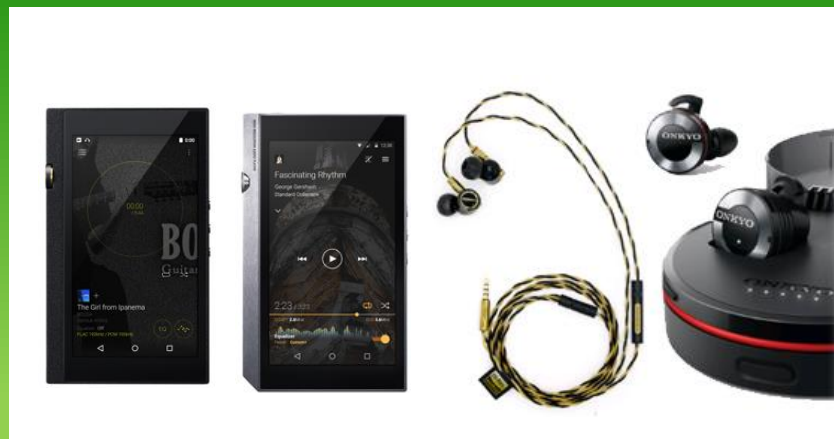
- 自動車部品のリーディングカンパニー：
UNO MINDA GROUPとインド国内に生産
工場の設立を含めた合併事業開始の協議に
関して基本合意（11月に合併契約予定）
- インド国内の自動車市場への参入、海外輸
出拠点として発展させ、来年度以降の事業
拡大を目指す

独自の音響技術や桐素材を採用した スピーカーシステムとマグネシウム素材 採用のヘッドホン



- 「桐」素材、和太鼓や三味線などに採用されて
いる「彫り」加工を施し心地よい響きを実現し
たスピーカーシステムを商品化予定
- 軽量と剛性を備えたマグネシウム素材を採用し
たヘッドホンやイヤホンのドライバーを開発
- 今期末より自社ブランドやOEM生産にて順次
販売開始予定

デジタルライフ製品の拡充 多彩なラインアップ



- 好評を博しているデジタルオーディオプレーヤー、音質や操作性を向上した第2弾モデルの販売開始
- ハイレゾ対応イヤホンや耳に挿入するだけの完全ワイヤレスイヤホンの販売開始

富士通コネクテッドテクノロジーズとの 協業開始



- 富士通製16年秋冬モデルスマートフォンのオーディオ出力をオンキヨーが監修
- オンキヨー音質ポリシーに沿ったサウンド再生を実現
- 今後もスマートフォンの音質向上、高付加価値な携帯情報端末の開発、新規販路開拓などの協業を検討

オンキヨーの目指すエコシステム

IoT時代を見据えた次世代製品の開発や協業を通じて、
2017年販売開始予定のスマートフォンやDAPを中心に新しいライフスタイルを提供



ONKYO®

本資料に記載されている業績や見込、将来に関する記述等は資料作成時点において入手可能な当社およびその関係会社の情報に基づいて予測し得る範囲内で当社が作成したものであります。これらの記述はリスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を保証いたしません。実際の業績は今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。本資料における第3四半期、第4四半期の見込値は、当該四半期累計期間値または通期業績見込値から前四半期累計期間値を差し引いて算出したものであるため、実際の第3四半期、第4四半期の値と誤差が生じている場合がありますが、その差額は百万円未満です。なお、本資料に関する全ての著作権その他の権利は当社に属します。